



## 『お正月はお墓参り』

お正月は、新しい穀物の実りをもたらし子孫の繁栄を見守つてくれる「歳神様」という神様をお迎えする行事でした。

お正月の「正」には「年の初め」「年が改まる」という意味があり、「たましいが若返り、新しくなる」一年の初めの月という意味があります。

昭和二十年ごろまでは、日本では誕生日ではなく元旦にみんな一緒に歳をとつて、お正月を祝っていました。

つまりお正月は、先祖とともに新しい年を迎える時で、全てが新しく始まる節目です。

お正月の意味合いをふまえるとお墓参りは行つたほうがいいということになります。



## 『お墓をさわると祟る?』

しかし他方、こうしたお墓の本質が薄れつつあるのも事実です。

死者は「怖い」、供養しなければ「崇る」などといった間違った考え方や情報の氾濫から、私たちが昔からずっと守り続けてきた、お墓の本質が忘れつづけます。

これだけは覚えておいていたいだけですが、お墓は絶対に崇りません。考えてみてください、もしかしたらお墓に入つたとき、お墓の建て方や祀り方うんぬんで、かわいい子供や孫を怒つたり、祟つたりするでしょう。

めつたにお参りに来ないようなら寂しく感じるかもしれません

お墓はどんなかたちでも、手形や祀り方など気にしないと感じるのはありませんか。

お墓は「悪いお墓」になりません。しかし、「樹木」…がつて来ます。

## 『樹木葬』

樹木葬は、費用面で墓石建立ほど費用がかからないという点や環境面で、自然に対しての負担が少ないという点から最近取り上げられます。

「樹木葬」と「お墓」の決定的な違いは、墓標を「樹木」にするか「石塔」にするかです。そして、短期間で合葬墓に移されます。

「樹木葬」は安く上がるかも

されません。しかし、「樹木」…

がつて来ます。



## 『供養の変化』

お墓参りした

気にならないと

感じられるの

は、親や祖父母

といつた先祖と

のつながりを感じないといふことにも、つな

がつて来ます。

これらのこととして、先祖（両親や祖父母）供養を主体的に取り組まないことが結果として、この世に生きる上で「心の支え」を無くし、「虚脱感」へとつながりかねないでしょう。

VOL.34

HP●http://www.tanakaya-sekizai.com/

Mail●info@tanakaya-sekizai.com

株式会社 田中家石材

発行／株式会社 田中家石材  
住所／彦根市高宮町108-1  
電話／0744(50)5000

全優石

全優良石材店

石材中野

## 『お墓とは?』

突然ですが、そもそもお墓は何のためのものだと思いますか。

「うちにもお墓があるけれど、ご先祖さまのためじゃないの?」

「亡くなつた人が入るための場所でしょ。」

「家族が代々引き継いで守つていくものだと思うけれど」

「そうですね。お墓が何のためにあるのか、お墓の意味は何か。」

「そんなこと尋ねられてもしない限り、ゆっくり考えることはあまりないかもしれません。」

「せつからですか、この機会にちょっと考えてみてください。」

「あなたやご家族にとって、お墓はどうなれば、『幸せを生み出す、打ち出の小槌』」

「お墓を大切に守るということは、家族や個人にとって『心の寄りどころ』であるだけでなく、ご先祖さまに対する感謝の気持ちの表れなのです。」

「お墓は言うなれば、『幸せを生み出す、打ち出の小槌』」

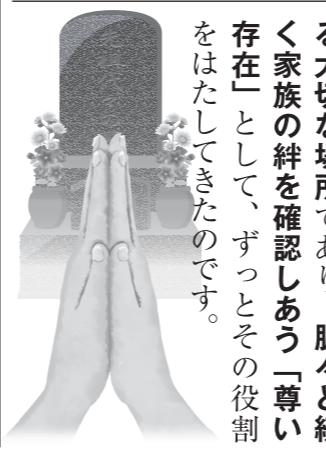
こうした「お墓」の本質的なことについて、親から子へ子から孫へと代々伝えていくことは、とても大切なことなのです。

全国優良石材店の会（全優石）は6日、葬祭に関する意識調査の結果を発表した。若年層が「一般の墓」を志向する傾向にあり、また一般の墓を希望する人は家族のつながりを

## 若者ほど墓を大切に

### 全優石葬送意識調査

●中外日報 (9/12)



長い年月にわたり、その場に存在し、お参りされ続けるお墓は、私たちに命を授けてください。さつたご先祖さまを供養し、現在に感謝し、未来にむかって家族の絆を深めるためのものです。

※迷つたときに心を落ち着かせ、日本人にとってお墓は、自分や家族の身に起こった出来事をご先祖さまに報告に行く

※ただひたすら感謝をしに行く日本人にとってお墓は、自分がお墓に対する思いを尋ねたところ、「子どもが情緒教育に有用」「家族のつながりが深まっている」などの回答が一般的な場所でした。

お墓はご先祖さまと対話できる大切な場所であり、脈々と続く家族の絆を確認しあう「尊い存在」として、ずっとその役割をはたしてきたのです。

## 『心の寄りどころ』

日本人は、はるか昔から亡き人の幸せをひたすら願うため、また生きている人の寄りどころとしてお墓を建て、お墓参りをしてきました。

日本人にとってお墓は、自分や家族の身に起こった出来事をご先祖さまに報告に行く

※迷つたときに心を落ち着かせ、日本人にとってお墓は、自分や家族の身に起こった出来事をご先祖さまに報告に行く

※ただひたすら感謝をしに行く日本人にとってお墓は、自分がお墓に対する思いを尋ねたところ、「子どもが情緒教育に有用」「家族のつながりが深まっている」などの回答が一般的な場所でした。

お墓はご先祖さまと対話できる大切な場所であり、脈々と続く家族の絆を確認しあう「尊い存在」として、ずっとその役割をはたしてきたのです。

日本人は、はるか昔から亡き人の幸せをひたすら願うため、また生きている人の寄りどころとしてお墓を建て、お墓参りをしてきました。

日本人にとってお墓は、自分や家族の身に起こった出来事をご先祖さまに報告に行く

※迷つたときに心を落ち着かせ、日本人にとってお墓は、自分や家族の身に起こった出来事をご先祖さまに報告に行く

※ただひたすら感謝をしに行く日本人にとってお墓は、自分がお墓に対する思いを尋ねたところ、「子どもが情緒教育に有用」「家族のつながりが深まっている」などの回答が一般的な場所でした。

お墓はご先祖さまと対話できる大切な場所であり、脈々と続く家族の絆を確認しあう「尊い存在」として、ずっとその役割をはたしてきたのです。

日本人にとってお墓は、自分がお墓に対する思いを尋ねたところ、「子どもが情緒教育に有用」「家族のつながりが深まっている」などの回答が一般的な場所でした。

お墓はご先祖さまと対話できる大切な場所であり、脈々と続く家族の絆を確認しあう「尊い存在」として、ずっとその役割をはたしてきたのです。

日本人にとってお墓は、自分がお墓に対する思いを尋ねたところ、「子どもが情緒教育に有用」「家族のつながりが深まっている」などの回答が一般的な場所でした。